

2019年7月24日
ソフトブレイン株式会社

ソフトウェア開発プロセスの国際的な指標 「CMMI Ver.1.3」で、**成熟度 レベル3**を達成

営業課題解決サービスを提供するソフトブレイン株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 豊田浩文、以下 ソフトブレイン）は、このたび開発本部 製品開発部 Remix 開発 U がソフトウェア開発プロセス能力の成熟度を評価・判断する国際的な指標である CMMI（Capability Maturity Model Integration）Ver.1.3 のレベル3を達成したことをお知らせいたします。現在、国内において CMMI レベル3を達成しているのは、株式会社日立製作所、アクセンチュア株式会社など当社を含め 41 社となります。

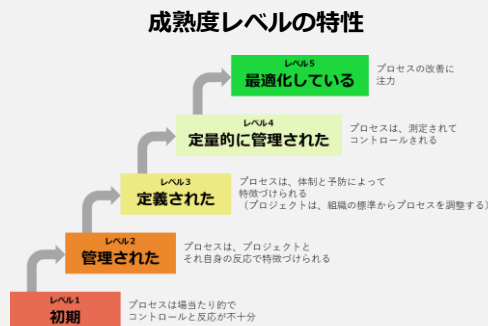


通常、技術者個人の経験やスキルに依存するケースが多いソフトウェア開発やプロセス改善の分野において、ソフトブレインでは従前より組織ルールとして標準化する仕組みを持ち、それを常に改善しながら運用を行ってまいりました。今回の成熟度レベル3 達成はこれら一連の取り組みが高く評価された結果と受け止めております。

当社は今後も、ソフトウェア開発における継続的な組織能力の向上と、CMMI レベル4 達成を目指していくとともに、プロセス改善活動を継続することで、ご提供サービスの品質・生産性向上に取り組んでまいります。

■CMMI（Capability Maturity Model Integration = 能力成熟度モデル統合）とは

CMMI は、米国カーネギーメロン大学のソフトウェア工学研究所（SEI）で開発されたソフトウェア開発およびシステム開発を行う組織の成熟度を評価するモデルです。国際的に実績のあるプロセス改善のモデルとして、世界中の多くの企業や組織が採用しています。CMMI の達成状況を示す「成熟度」は右記の 5 段階で表されます。



※CMMI は、米国 Clearmodel, LLC の米国及びその他の国における商標または登録商標です。

本ニュースリリースに関するお問い合わせ先

広報担当：荒川

東京都中央区日本橋 1-4-1 日本橋一丁目三井ビルディング 19F

TEL：03-6880-9500 FAX：03-6880-9501

MAIL：press@softbrain.co.jp